

総理は次亜塩素酸水の愛用者 超党派議連の片山氏は財務相に

過日、東京出張のついでに衆議院第一議員会館の高市早苗議員事務所にて挨拶に行った。ご本人はすでに自民党総裁室に引越されていたが、秘書グループは次々と届くシクラメンの片付けと、殺到するスケジュール管理に忙殺されていた。シクラメンはもう置くところがないだろうと、根室から大きなカニを送らせたが、総理の初外遊と被ってしまったので秘書さんたちの口を喜ばせたい。

■総務大臣からの手紙

実はコロナ禍の時、私が代表理事を務める（一社）次亜塩素酸水溶液普及促進会議から高市議員にお手紙を書いたことがある。高市議員は、業界利権により次亜塩素酸水を陥れようとやつきになっていたアルコール業界と薬品メーカーが、厚労省の官僚を巻き込んで「次亜塩素酸水の空間噴霧は危ない」というデマを流し続けたときの総務大臣であった。



▲高市早苗総理の議員会館の事務所

わが国のコロナ収束を遅らせ、多くの犠牲者を増やすことになった企業エゴの愚かな利権工作は「次亜塩素酸水でコロナを不活化することができる」という国



危機管理コンサルタント 越智文雄の 時論・持論・自論

〈第43回〉高市早苗総理が誕生！

の試験結果を「空間噴霧は危ない」という真逆の報道を行ったNHKの大誤報から始まった。このデマを信じて加湿器の噴霧をやめ、感染予防を後退させたところも多かった。デマを鵜呑みにした保健所の誤った指導で、ある保育園ではノロ防止の為に数年来使っていた次亜塩素酸水の超音波加湿器を片付けてしまい、その保育園では案の定クラスターが発生した。コロナウイルスは自宅待機となった園児から父親に感染し、まだ若いお父さんが高熱の後亡くなったという。このアルコール薬品メーカーが仕掛けた悪辣な風評のせいで空気感染対策が封じられて日本のコロナ終息は遅れに遅れたのである。

さて、当然、わが団体は強硬に抗議をするわけだが、この抗議の鋒先は誤報によりコロナを広げることとなったNHKであり、その監督官庁である総務省にもなる。連日、霞ヶ関で厚労省に抗議し、永田町で議員連盟

への参加を依頼して歩いてきたある日、一通の封書が届いた。「ことコロナについては、慎重で正確な取材と報道が必要であると考えています」との趣旨の総務大臣直筆の手紙であった。

後に、高市大臣自身が次亜塩素酸水の愛用者であることを知り、わが業界は一気に高市びいきになったのであった。あの時、自分の利権のために国民の生命と健康をオモチャにした愚かな企業と、天下りの厚労省の官僚と、スポンサーの意向にシッポを振って次亜塩素酸水を攻撃して空気感染対策を遅らせたメディアと似非専門家よ、現在の総理は次亜塩素酸水を愛用して空気感染対策をとっており、片山

さつき財務大臣は積極的に感染対策をとることを政府に求める「感染対策を技術と資材から考える超党派議員連盟」の会長であることを知れ。

■経済安保大臣の意気

もう一点、私の本業である日本全国の照明をLED化する仕事でも高市議員にはお世話になった。2023年12月にスイス・ジュネーブで締結された「水銀に関する水俣条約」は、世界中

から微量の水銀を含む蛍光管を廃絶しようとするものであるが、実はこの条約が中国のレアアース資源戦略の一環であった。発光ダイオードの原料となるガリウムの98%は中国が押さえており、世界の蛍光管を製造禁止にしてみればLEDの世界特需が起きて、世界の灯りを中国が握ることになるのである。

日本中で10億本以上残っているという蛍光管を年間600万灯の生産能力しかない日本のLEDメーカーに賄えるわけがない。こんなことも考えずに国際条約を締結してしまった環境省と経産省とオプザーバーの（一社）日本照明工業会のでかした行政災害である。現にこの10月になって、P社・T社・M社のベースライト型LED照明器具は品切れとなり、年明けまでは入荷しない模様である。全国の新築ビルの照明が付かずに引き渡しが出来ずにいる。

今、安定器に寿命が来て不点灯となった照明はあと3ヵ月は

消えたままとなる。安定器は2019年に政府「あかり未来計画」で製造終了していてLEDに替えるしかない。そのLEDが長期間手に入らない。これが病院や学校で3ヵ月、半年、1年間不点灯になるしかないとしたらどうなるだろうか。トンネルや地下街、地下鉄、港湾、防衛施設も灯りが消えては使えない。

このような日本の灯りを左右する国際条約を工作したのがLED原料を独占する中国のレアアース戦略だったのは間違いない。もう日本の照明は中国に握られてしまった。尖閣問題や南西危機が起きたならば、習近平は迷わずガリウムとLED照明の輸出禁止を命じるだろう。このことを訴えた先が、当時の経済安全保障担当大臣の高市早苗議員であった。

札幌のホテルで開かれた自民党政経勉強会で、ご本人にエレベーターブリーフィングした時に、文字にするのは差し支える



▲左は財務大臣に就任した片山さつき氏

が、中国に対する力強く簡潔かつ過激な発言があったことと、その後、後任となる城内実経済安保大臣にも紹介してくれたことは記載しておこう。

総理に就任し、満面の笑みでトランプ大統領と腕を組み、内閣支持率は8割を超えた。本稿を書いているいま日中首脳会談が行われている。レアアース問題ではアメリカに1年の猶予を与えた中国だが、中国入国拒否リスト上位の高市総理とはどのような関係を構築するだろうか。

■保守の何が悪い

公明党の離脱から厳しい船出となった高市総理だが、覚悟の不確かな政治家よりも、働いて働いてワークライフバランスも（自分には）適用しないと宣言するこの人に期待したい。信条も経験も人格も全部丸めて政治家である。女でも男でも、保守でも右でも左でも国民のために働く優秀な人ならば働いてもらおう。

高市早苗は保守だと言う。右だと言う。国を護り、家族を護ることのどこが悪い。靖国神社には私もお詣りする。国防の充実がこれほど必要となっている時期はない。北海道上富良野町には来年スタンドオフミサイルが配備されることが決まった。このミサイルの射程は北朝鮮から中国まで届くのだという。

岸田内閣でトマホークの購入が決まっていたが、この配備が石破内閣時代でよく決まったものだ。これこそが日本の抑止力である。もしも、北海道の自衛隊基地と札幌行政庁と空港、港を向いている北方領土のロシアのミサイルが発射されたら、反撃でロシア軍基地は消滅する。少なくとも第二弾は飛来しない（はずである）。

ウクライナでザポリジニ原発は両国にとつての地獄の蓋で双方が攻撃できないが、国後島からのミサイルにとつては指呼にある泊原発はロシアの標的であり深刻な人質になる。核攻撃を

しなくても通常ミサイルで北海道の半分は人が住めなくなり、漁業も農業も観光も半導体も産業は潰える。この事態を避ける抑止力が上富良野のスタンドオフミサイルである。

北朝鮮がテポドンを打ってきても平壤に届くミサイルがあるならば十分な抑止力である。沖縄では尖閣諸島問題も南西台湾問題も「いまそこにある危機」であり、石垣市では有事には5万人島民が九州と山口に避難することになっている。翻ってEJZ圏内どこか根室から最短3・7秒しか離れていない北方領土でミサイル基地を持ち、毎年、北海道侵攻の侵攻大演習を行うロシアを「見ない、見えない」でいる政府と国民は新総理の北を顧る目に期待すべきである。国会は国の命運を考える自衛の議論を尽くすべきである。

政治家は政策を立案し、実行してナンボの世界である。政治が解決するべき問題、国家の課題と危機は星ほどある。国会議

鳥インフルエンザに次亜塩素酸水を

高市早苗総理の記憶から次亜塩素酸水のことを書いたが、この用途は人間の感染予防だけではなく、酪農でも極めて有効である。

過日、鳥インフルエンザが発生し46万羽を殺処分している最中の北海道白老町に行ってきた。お付き合ひのある町議に状況を聞き、鳥インフルエンザを不活化する次亜塩素酸水を広域噴霧する機材を車に詰めるだけ持つて説明に向いた。コロナ禍では感染対策で活躍した機材たちで、当然、新型インフルエンザにも鳥インフルエンザにもノロウイルスにもマイコプラズマ肺炎にも百日咳の感染予防にも効く。町の総合体育館には北海道が



▲牛舎での次亜塩素酸水噴霧



▲国内事例 ▲海外事例 ▲JFK ホームページ

も感染し、車のタイヤや靴底からの移動も考えられる。今年の北海道帯広のばんえい競馬を一時中止させた馬インフルエンザの感染でも緊張が走ったが、サラブレッド馬産地では次亜塩素酸水が日頃の



▲白老町の殺処分に向かうバス

対策本部を置き、連日発生現場の養鶏場へバス何台も移動し殺処分と埋設を行っている。道の職員が中心と聞いているが、大変な動員と運営作業が続いており頭が下がる。

広い体育館の中で、数十人が防護服に着替え、現地レッドゾーンでは靴からの感染拡大を防ぐため、長靴を履き替えて作業している。

専門家に伺ったところでは、養鶏場での鳥インフルエンザの発生は渡り鳥やカラスの糞から

消毒に使われていて、コロナ禍では町民に配布された。

酪農では、靴底の消毒や入構時のタイヤ消毒はもちろん、牛も豚も鶏も羊も次亜塩素酸水を畜舎内空間に霧状に噴霧することで空気感染を予防し舎内を消毒しているところが多くある。地下水からの感染もありうるので水飲み水槽に次亜塩素酸水を薄く入れておくことにも効果があるそう。

今回の道への提案は、殺処分に動員された職員の方々がご自宅に帰る前に、全身外観を次亜塩素酸水で噴霧消毒することにより安心して帰宅してもらうという提案である。鳥インフルエンザが人間に感染しないとは言うものの、殺処分の職員は万が一を考えて防護服を着てゴーグルをかけている。コロナの時には「お父さん、玄関で全部脱いで、風呂場で洗ってきて」と冗談のような風景もあった。ご家族やベットの安心のためにも現場からバスに乗り込む前に、全身噴霧消毒を行うことをマニュアル化すればどうだろうか。

昨年、照明の2027年問題で鹿児島県知事にレクチャーに伺った際にも、前日に発生した県内での鳥インフルエンザ処分で全職員が三交代で出向いていると聞いた。

全国でもある日突然発生するこの非常事態に対策をシミュレーションしてマニュアルを更新し、十分な資材を備蓄しておくべきである。これほどの重大な作業を強いられるリスクマネジメントには、養鶏場へのまだ行っていない対策がなにかを調べて徹底すべきである。

■避難所の感染対策にも

私が代表理事を務める一般社団法人次亜塩素酸水普及促進会議では能登半島地震で3度の現地支援に向き、避難所での感染対策物資を寄贈してきた。今、どこかで自然災害が起これば、避難所にはコロナ感染者やインフルエンザ患者も避難してくる。今更体育館の床や壁や手すりを漂白剤を500倍に薄めて拭き取るなどというマニュアルは無



▲防災・停電対策 ▲新型コロナウイルス対策

いはずだから、最新の資材と技術の情報を更新して備えてもらいたい。

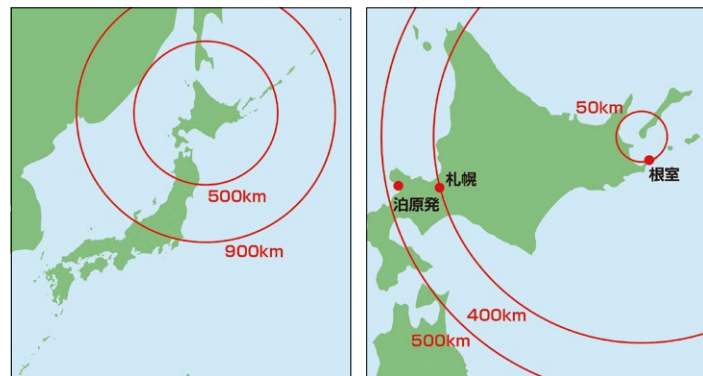
株式会社あかりみらいでは、コロナバスターズ事業として300名相当の次亜塩素酸水を生成でき、6年間の備蓄が可能な手のひらサイズのパウダーを避難所の数だけ寄贈してきている。また、災害時の停電対策として、1500Wコンセント付きハイブリッド車を発電機として使うことを可能とする電流制限機付き給電キットも寄贈している。

防災訓練では、感染対策、停電対策も実践すべきである。

なお、「次亜塩素酸水は危ない、空間噴霧は危険だ」というデマをまだ信じている皆様には前ページの写真を見てほしい。

総理就任祝いに挨拶に向いた高市早苗国会議員事務所では次亜塩素酸水の空間噴霧を絶やしたことがない。ちなみに財務大臣に就任された片山さつき議員は「感染対策を技術と資材から考える超党派議員連盟」の会長を務めていただいている。国の感染対策が進むことを期待している。

員も地方議員も行政官も働いて働いて働き尽くすほどの覚悟と根性で挑んでいたきたい。



▲スタンドオフミサイル射程 (イメージ)

▲北方領土ミサイル射程 (イメージ)

【筆者略歴】
樹あかりみらい代表取締役。北海道大学卒業後、北海道電力入社。電気事業連合会企画部副部長、北海道洞爺湖サミット道民会議事務局次長、北海道経済同友会などを歴任。電力業界で初代の危機管理担当室長の経験から自治体・企業へのアドバイザーとして活躍。環境・エネルギー問題の専門家。（一社）日本の灯りを護る会代表、（一社）次亜塩素酸水溶液普及促進会議代表理事、自然冷媒開発研究機構理事を務める。札幌に在籍する経済人ネットワーク主宰。